

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	複合福祉施設の総合窓口にてのパネル掲示とグループホーム玄関入口にも掲示して確認できるようにしている。職員研修にて全職員に理念の理解を深めている。令和1年度のグループホームの目標も張り出し、個々の具体的な実施目標を意識しながら業務に望んでいる。	まず中途採用を含めた新人研修時に理念を確認し、毎月の職員会議ではサービス場面を振り返り、更に理解が深まるよう取り組まれている。職員は理念の実現に向けて、理念を踏まえた年間の目標を設定しケアに取り組み、年度末に振り返ることでサービスの質の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域作り委員会を通して、納涼祭・敬老会・収穫祭などのイベントに参加している。また地域作り委員を中心に、地区のゴミゼロ運動や防災訓練にも積極的に参加している。	月に1回、法人内で組織された「地域づくり委員会」が開催されている。この委員会が中心となり地域の行事や中学校の文化祭、清掃活動、防災訓練、AED講習会等に参加され、地域と積極的に交流されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部研修に参加しながら、認知症の方の理解や関わりについて、地域住民や家族からの要請があれば相談できるように準備している。今年度は施設内で認知症サポーター研修を行ったり、外部の指導者に協力して頂き、「健康体操教室」を実施している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 利用者家族、住民代表、地域包括支援センターからの参加により開催している。利用者の生活の様子を映像や写真を交えながら報告し、意見交換を行なっている。会議録は、グループホーム玄関入り口に置き、何時でも閲覧できるようにしている。	2か月に1回開催されている。グループホームの日頃の活動について、わかりやすく写真等の映像で報告し、理解が深まるように工夫され、意見交換等も行われている。会議録はグループホーム玄関脇に置いてあり、何時でも閲覧できるようになっていた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事業所連絡会に参加し、日頃の取り組みやサービスに関する情報交換を行っている。また、地域密着運営推進会議では、市町村担当者にも毎回参加して頂き、情報を得ている。	2か月に1回の運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、2か月に1回参加している介護保険事業所連絡会では、村職員と情報交換を行うなど連携を図っている。また年1回、行政の長と意見交換する機会もある。		

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束事故対策委員会を毎月1回開催している。身体拘束ゼロの原則に従いミニカンファレンス、リスク委員会等で検討している。グループホーム内でも毎月1回の職員会議の中でミニカンファレンスを行い、身体拘束を含めたリスクについて話し合っている。	委員会があり毎月1回会議が開催されており、会議の中では事故報告やヒヤリハットの検討が行われ、拘束をしないケアに取り組まれており、グループホームでは開所以来、身体拘束は1度も行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内、外の研修に参加し、伝達研修にて周知している。月1回のリスク委員会においても検討している。今年度は、9月と11月に全職員を対象に高齢者虐待身体拘束廃止研修を実施している。グループホーム職員は全員参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	7.に同様。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の相談、アセスメント、入所に居るまでの間に十分な説明をし、同意を得た上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	たんぽぽ通信や担当者からの手紙で日頃の生活の様子を伝え、プラン説明や面会の機会を通じて個別の意見を頂戴している。また、グループホームでの家族会を年3回開催し、五平餅作りや食事会の中で意見や要望を頂けるよう話しやすい雰囲気作りに心掛け、頂戴した意見を運営に反映している。	ご家族が面会や年3回開催される家族会で訪問された際、意見、要望が頂けるように、日頃から話しやすい雰囲気作り、関係作りを心掛けている。出された意見は職員会議等で話し合い、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の相談・意見を主任が受け、施設全体で検討すべき提案に関しては、主任会・介護部会で検討し運営に反映している。また、主任・課長面談もあり意見を出してもらっている。	職員の相談、意見が出やすいように、管理者が日頃から職員との関係作りを心掛けている。出された意見は、月1回開催の主任会、月2回開催の介護部会で検討され運営に反映されている。仕組みがしっかり出来ているのでスピーディーに対応されている。	

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H28年度からの人事制度を実施している。個人面談を行い、課題や目標を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中途採用職員研修・根拠ある介護技術伝達研修を実施している。また、人材育成委員会を中心に研修計画を立て、実施している。個々でも外部研修に積極的に参加し、伝えるべきものは伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	村内の事業所間での連絡会運営に協力して研修事業を開催し、参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせ時から本人の困りごとや不安な点に注目しながら聞き取りを行い、ひとつひとつの想いに寄り添いサービスに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ時から本人の困りごとや不安な点に注目しながら聞き取りを行い、事業所として可能なサービスを明確にすることで家族との合意を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	切れ目ない相談とサービス提供を初期から努めている。(家族・利用者・事業者)複合福祉施設総合窓口での相談や他事業所利用の提案も行っている。		

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が今まで行ってきたことを中心に、職員と共に洗濯物を干したり畳んだり、調理を行ったりしながら、生活の場面での関係作りに努めている。今年も利用者を中心に、畑の草取り・苗植え・野菜の収穫を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族を含めたグループホームの事業(年3回の食事会)にて、日頃の生活の様子を伝えたり、家族の思い・悩みなどを聞きながら、共に支えあう関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族や近所の方の面会や、利用者の想いを汲み取りながら家族のご協力のもと、馴染みの場所へ外出する等、入所前からの大切にしてきた人や場、習慣がと切れないよう、支援に努めている。	馴染みのスーパーへの買い物、地元のお祭りへの参加、行きつけの美容院、好きなものの外食など、馴染みの関係が継続できるように、家族の協力も得ながら取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員を介した関係づくりや時間・場所や思いに添い、日常生活行為(洗濯物干し・洗濯物量・食器洗い・調理等)を協働しながら利用者間の繋がりを継続して支えている。また、体操やレクリエーション等を皆で行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族へ手紙や写真を送ったり、電話をしたり、家族に会いに行ったり、その時々で対応支援しながら、これまでの関係性を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設内での標準ケアに固執せず、今までしてきた暮らしや思いに視点を置き、意向を汲み取りながら、職員間で情報を共有している。表出が困難な方においては日々の言動を観察しながら記録に残し、想いを推し量り、カンファレンスにて共有している。	一人ひとりの思いや意向が把握できるよう日頃から利用者との関係作りに努力されている。1対1になる入浴の時間などを利用しながら、一人ひとりの思い、意向の把握に努めている。表出が困難な方についても、職員間で情報を共有し、隠れた想いを推し量りながら対応されている。	

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には必要があればご自宅に伺い、本人の実際の生活を目で確認するようにしている。本人の生活(生誕時から現在までの暮らし)を本人やご家族、関連事業所から聞き取り、大切にしていることやこだわりを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に情報集を行い、その後の変化については個人記録や利用者ノートにて日々の生活状況や気付いた点を記録し、全職員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向に沿って、担当者を中心にカンファレンスにて可能なケアを検討している。現状を理解し、維持向上に向けチーム全員が同一の方向で実践可能な計画を作成している。	本人、家族の意向を担当者が中心となりカンファレンスを開催。ケアスタッフ、ケアマネジャー、管理者などを含めてチームで話し合いが行われており、現状に即した介護計画作りがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や共有ノート、申し送り、カンファレンス等で情報を共有しながら統一したケアを実施し、必要に応じてケアの検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の意向に合わせ、地域のお祭りを見に行ったり、外食支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんに来て頂き、お華教室やケーキ喫茶、各演芸鑑賞等に参加して頂いている。近所の方や商店街との関係性も継続できるようにし、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を伺い、各々に希望された医師と連携を図っている。大切な関係性がある場合は継続して受診ができるよう支援している。、必要時は職員が付き添い受診し、情報を家族と共有しながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に希望を確認、各々に希望された医師が掛かりつけ医となっている。現在、協力医以外を掛かりつけ医に持つ方が3名いる。受診時は、必要な情報を書面にして情報提供している。協力医以外の受診でも施設職員が付き添う場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々観察を行う中で捉えた情報は介護職内で共有し、施設内の担当看護師に伝えて相談している。必要に応じて往診や受診へ繋がれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も院内地域連携室との相談、連絡を継続し退院の道筋を付けられるよう支援している。また、面会にて本人の状況を確認し、医療関係者とも連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期の迎え方について説明している。看取りケアが可能なことや、緊急時の対応と共に事業所と家族、本人の意向にずれが生じないようその都度相談支援を行っている。	入所時から看取りに関する説明を行っている。希望者については、体力の低下に合わせて必要に応じてその都度打ち合わせを行い、こまめにカンファレンスを開催する等して方針を共有。法人内にある別事業所の看護師も加わりチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を取得し、緊急時にも冷静な対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。地域との防災協定や福祉協定もできている。10月に施設内での防災訓練(水害対策)を実施している。	夜間想定を含め年2回の避難訓練が実施されている。マニュアルが作成されており、研修も県の出前講座「災害対応力向上研修」を受講するなど災害に対する教育も行われている。	今後は福祉避難所として、備蓄を充実させ防災倉庫の設置なども検討中とのこと。災害対策を通して更に地域との連携が進んでいくことを期待したい。

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の誇りやプライバシーを大切にしよう、丁寧な言葉使いに心掛けている。また、キャリア段位レベル1を全員が登録でき、その中で振り返り(自己評価)している。	年2回プライバシーに関する研修を行っている。キャリア段位制度の中で自分の対応に関する振り返りを行っており、評価、指導を行い向上していく仕組みがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の行動・表現等から、本人の思いを汲み取り、自己決定できるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状況と習慣から一日のリズムとペースを汲み取り、希望に沿った個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見て身だしなみを整えたり、一日がおしゃれから始まるよう手伝いをしながら、朝の挨拶をしている。 家族の情報や本人の意向から化粧品を用意したり、入浴前には好みの服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとり希望に沿った食事提供を行い、苦手なものは別メニューで対応している。また、味噌汁の具を考えて地元のスーパーへ買い出しに行き、利用者と職員と一緒に料理をしたり、おやつ作りをしている。	食事は基本的に厨房で作られるが味噌汁はグループホームで調理する。また毎月食事作りの企画を行い、フロア内で五平餅等を利用者も一緒に作り作る機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に配慮しながら計算された栄養後食事を提供している。また、嗜好調査を実施し、残量と調整をしている。定期的に体重測定を行っている。 40.に同様		

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの習慣を大切にして、ご本人に応じたデンタルケアの提供、歯科医との連携を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を共有することで、個々の排泄パターンを掴み、職員一人ひとりが意識しながら出来る限りトイレで排泄が出来るよう支援している。心身の状況に応じてポータブルトイレ、福祉用具、排泄用品を見極め、自立に向け支援している。	24時間シートを利用し尿量を測定する等、一人ひとりの排泄パターンを把握し失敗やオムツの使用を減らし、出来る限りトイレで排泄できるよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容・量・水分・運動に注意して記録を取りながら看護師とも連携し、個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるよう体制を整え、希望や体調に配慮しながら入浴支援している。身体状況に応じて入浴方法を変えている。また、同性介助の希望に副う等、安心して入浴できるよう配慮している。副う	グループホーム浴室は一般的なユニットバスで落ち着いて入ることが出来る。複合施設の利点を活かし、身体状況に応じて入浴方法を変えることも出来る。基本は週2回だが、希望や体調により柔軟に入浴できる体制を取っている。また同性介助の希望にも沿えるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や症状、一人ひとりの要望に応じて、寝具や温度管理を行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬について理解しながら服薬支援を行っている。また、医療と連携して症状・様子を職員間で共有しながら、ケアに努めている。		

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力を活かしながら、野菜作り・草取り・洗濯物干し・食器洗い・清掃等協働し、関わりながら楽しみをもって、ご本人の自立支援に繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じながら生活できるよう、お花見(花桃)ドライブ・紅葉ドライブ・栗拾い等実施し、利用者と共に職員も楽しめる取り組みをしている。また、今までの生活習慣を大切にし、希望時には個別の外出実施している。	天候の良い日は、施設隣にある公園に散歩に出掛けている。毎月外出の企画を設け、花見や紅葉、栗拾い等に出掛けている。希望時には個別の外出をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でのお買い物会を利用して買い物を楽しんだり、週2回味噌汁の食材の買い出しに、地元のスーパーへ出掛けている。会計は見守りながらご本人達にしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とも協力し、本人との電話でのつながりを大切に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の作品を飾ったり、利用者と共に季節の花を飾る等、四季を感じられるような装飾をしている。食事中はオルゴールや静かな曲を流す等、落ち着いて食事が摂れるように配慮し、不快や混乱を招くような刺激を与えないように努めている。	居間は、窓からの陽で全体的に明るく開放感があり、窓際にはソファが置かれ施設の畑で育てる作物の成長を楽しんだり、景色が楽しめるようになっている。全体的に落ち着いた共用空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭が見える窓際にソファを置き、落ち着いて過ごせる居場所を作っている。時には一人で、また気の合う同士で利用している。		

複合福祉施設プラムの里グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自宅で慣れ親しんだ家具や備品を持ち込んで頂き、家族の写真やグループホームで撮った写真や各個人で作った作品を飾り、安心して過ごせる居場所作りに努めている。	慣れ親しんだ家具や夫の位牌、仏壇などが持ち込まれ、自宅と変わらない雰囲気作りに努めており、居心地の良い居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	症状とその人らしい行動を見極めて、一人ひとりができることに配慮して見守っている。		